

私立大学キャンパスシステム研究会 事務システム分科会
多様な働き方に対応するためのシステム導入と制度設計

DX創生プラットフォームが 導く働き方改革

～勤怠管理システム導入プロジェクト～

2025年11月26日(水)
学校法人日本女子大学
管理部 システム課
本間 隼人

本間 隼人

Homma Hayato

学校法人日本女子大学
管理部 システム課

プロフィール

民間企業、国立大学を経験

日本女子大学入職後、学園DX推進に従事。

- ・勤怠管理システムの導入
- ・図書館システムのクラウド化
- ・学園基幹システムの更改
- ・DX人材育成施策の立案と運営
- ・学園専用生成AI対話プラットフォームの内製開発
- ・学園IR (Institutional Research) 基盤の内製開発

etc..



DX創生プラットフォーム

1.人材

- 1.1 DX人材育成の背景
- 1.2 DXコア人材のスキル整理
- 1.3 DXコア人材の育成方針
- 1.4 DXコア人材の育成実行

2.データ

- 2.1 データ統合の方針
- 2.2 データ統合の課題
- 2.3 データ統合分析基盤 (JWU-IR) の概要
- 2.4 データ統合分析基盤 (JWU-IR) のデモ

3.AI

- 3.1 AIの動向
- 3.2 生成AIと学内情報の連携 (RAG)
- 3.2 生成AIと学内データの連携
- 3.3 データ分析業務におけるAIエージェント

勤怠管理システム導入プロジェクト

1.勤怠管理システム導入前の課題

2.勤怠管理システム導入のスケジュール

- 2.1 勤怠管理システムの選定
- 2.2 勤怠管理システムの設定
- 2.3 勤怠管理システムの学内周知

3.勤怠管理システム導入による課題解決

4.勤怠管理システム導入の副次的効果

- 4.1 副次的効果①:勤怠管理に関わる工数削減
- 4.2 副次的効果②:時間を意識した働き方
- 4.3 副次的効果②:働き方を検討の基礎データ

5.今後の展望:学園の生産性向上

DX創生プラットフォーム

1.人材

- 1.1 DX人材育成の背景
- 1.2 DXコア人材のスキル整理
- 1.3 DXコア人材の育成方針
- 1.4 DXコア人材の育成実行

2.データ

- 2.1 データ統合の方針
- 2.2 データ統合の課題
- 2.3 データ統合分析基盤 (JWU-IR) の概要
- 2.4 データ統合分析基盤 (JWU-IR) のデモ

3.AI

- 3.1 AIの動向
- 3.2 生成AIと学内情報の連携 (RAG)
- 3.2 生成AIと学内データの連携
- 3.3 データ分析業務におけるAIエージェント

勤怠管理システム導入プロジェクト

1.勤怠管理システム導入前の課題

2.勤怠管理システム導入のスケジュール

- 2.1 勤怠管理システムの選定
- 2.2 勤怠管理システムの設定
- 2.3 勤怠管理システムの学内周知

3.勤怠管理システム導入による課題解決

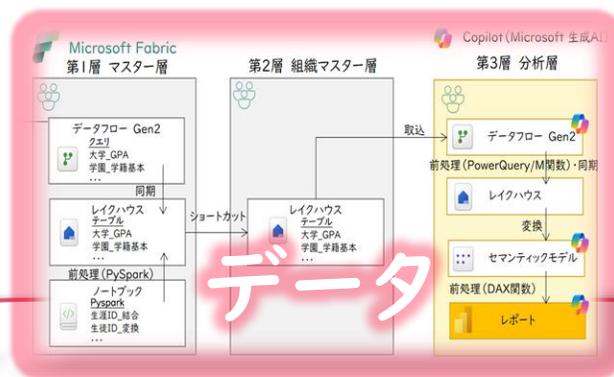
4.勤怠管理システム導入の副次的効果

- 4.1 副次的効果①:勤怠管理に関わる工数削減
- 4.2 副次的効果②:時間を意識した働き方
- 4.3 副次的効果②:働き方を検討の基礎データ

5.今後の展望:学園の生産性向上

DX創生プラットフォーム

- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、DX創生プラットフォームを構想し、具現化
 - 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
 - データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
 - AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー



DX創生プラットフォーム

• 日本女子大学では、更なるDX推進のため、DX創生プラットフォームを構想し、具現化

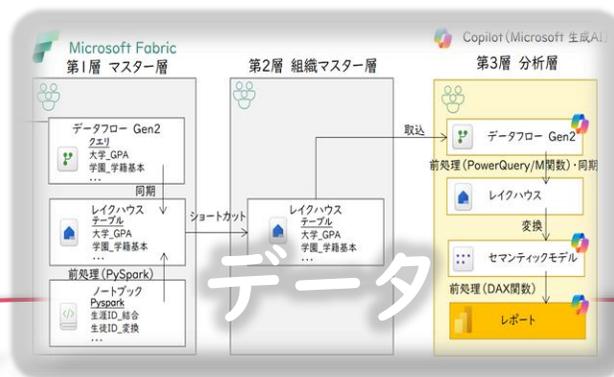
(1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成

(2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤

(3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー



人材



データ



AI

DX創生プラットフォーム

- 本来あるべきDX推進には、人材へのアプローチが必要不可欠という課題に直面した
- DX創生プラットフォームの要素として人材育成の取組方針を定めた

DX効果

最もニーズを把握している
現場が率先した改革こそ
有効なDX推進

DX速度

システム課のみでは
年間の対応件数に限界
現場の協力が必要

DX規模

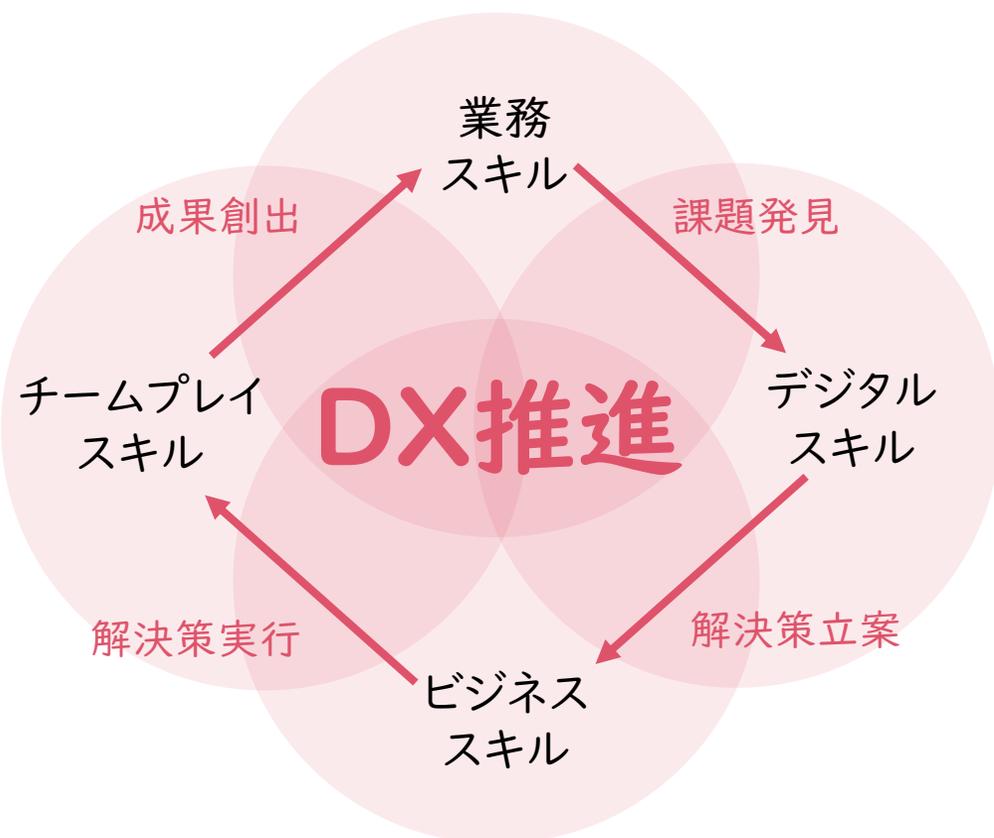
大規模な変革には、
現場間の連携が必須

人材へのアプローチ

DXコア人材＝現場でDX推進の核となる人材を育成

1.2 DXコア人材のスキル整理

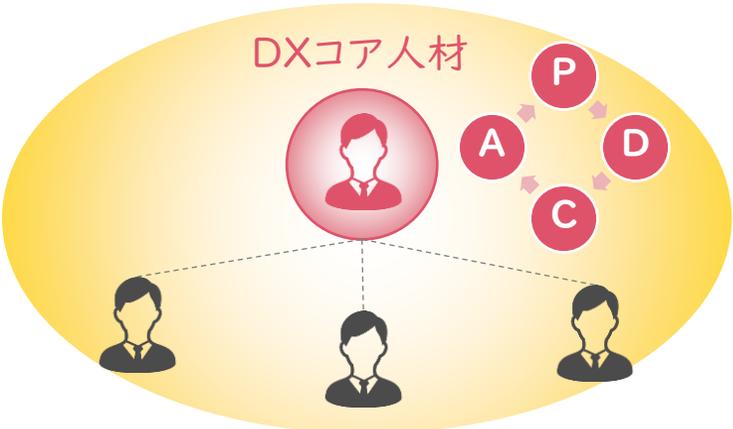
- 経済産業省/情報処理推進機構 (IPA) のデジタルスキル標準を活用し、**本学の大学職員のDXコア人材**として、DX推進には「①業務スキル」「②デジタルスキル」「③ビジネススキル」「④チームプレイスキル」をバランスよく高めていくことが必要と再定義



スキル	概要
①業務スキル	本学の業務運営に必要なスキル (課題発見に関連するスキル)
②デジタルスキル	ITに関する興味関心や知識 (解決策立案に関連するスキル)
③ビジネススキル	論理的思考、 プレゼンテーション(説明能力/説得力)能力 (解決策実行に関連するスキル)
④チームプレイスキル	利害関係の異なる組織間の折衝や 成果創出に至る計画・分担等のマネジメント力 (成果創出に関連するスキル)

1.3 DXコア人材の育成方針

- 下記、STEPで人材育成を進める。
 - STEP1: デジタルスキルのレベル把握を実施し、DXコア人材を推薦
 - STEP2: DXコア人材はビジネススキルの研修(問題解決研修)を受講
 - STEP3: 実業務の問題に対し **問題解決を実践し、1年間の取り組みで成果を創出**

STEP①: レベル把握	STEP②: 階層別研修	STEP③: 実践研修
	<p>DXコア人材</p> 	
2023年度10月	2024年度6月	2024年度5月～
業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)
デジタルスキル	デジタルスキル	デジタルスキル
ビジネススキル	ビジネススキル	ビジネススキル
チームプレイスキル	チームプレイスキル	チームプレイスキル

1.4 DXコア人材の育成実行

- 日々の業務や組織の目標達成のため、課題解決に日々取り組みを実施
- 外部研修受講や定期的な報告会によって改革のスキルを醸成する
- さらに、継続的にDXコア人材を入れ替え、育成のバトンを継承する仕組み化



DXコア人材



チーム別で研修



定期的な報告会



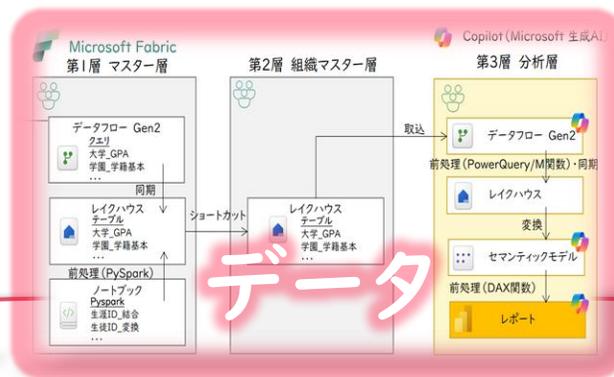
チーム毎サポーターが1名



管理職全員対面で参加

2. データ

- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
 - (1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
 - (2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤**
 - (3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー



DX創生プラットフォーム

2.1 データ統合の方針

- ・本学は、附属校園を含む全データを統合し、一元的に管理・分析する仕組みを構築
- ・「エンロールマネジメント」を超えた「フル エンロールマネジメント」を実現し教育の質向上や組織全体の意思決定に役立てることを目指す



日本女子大学
附属豊明幼稚園



日本女子大学
附属豊明小学校



日本女子大学
附属中学校



日本女子大学
附属高等学校



日本女子大学



日本女子大学大学院

フル・エンロールメントマネジメント



志願者



在学生



卒業生

入学

エンロールメントマネジメント

卒業

- ✓ 入試種別
- ✓ 入試得点
- ✓ 出身高校
- ✓ 高校成績 etc..

- ✓ GPA
- ✓ 履修科目
- ✓ 出席
- ✓ 学部学科 etc..

- ✓ 就職先
- ✓ 職種
- ✓ 業界
- ✓ 業種 etc..

2.2 データ統合の課題

- 目指すデータ基盤の実現のために次の3つの課題を整理した。
- 課題①: 統合データ分析基盤へのデータ連携による円滑なデータ共有
- 課題②: 生涯IDによる学生識別の一貫性確保
- 課題③: 自立分散的なデータ駆動組織の強化

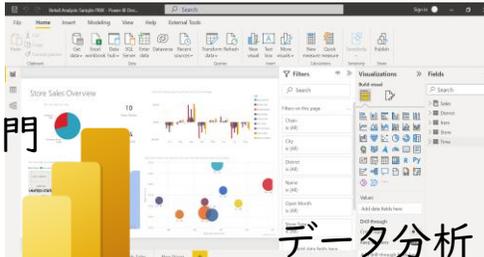
基幹システム 大学システム 中学・高校システム 小学校システム



依頼 ↑



企画系部門



データ分析

基幹システム 大学システム 中学・高校システム 小学校システム

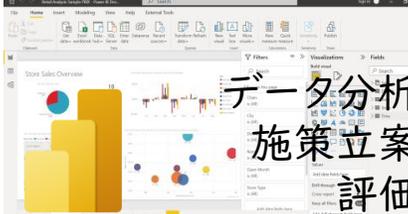


① データ集約

Microsoft Fabric 統合データ分析基盤

	幼稚園	小学校	中学校	高校	大学
氏名	日本花子	日本花子	日本花子	日本花子	日本花子
学籍番号	123	456	789	101	112
生涯ID	001	001	001	001	001

データ活用

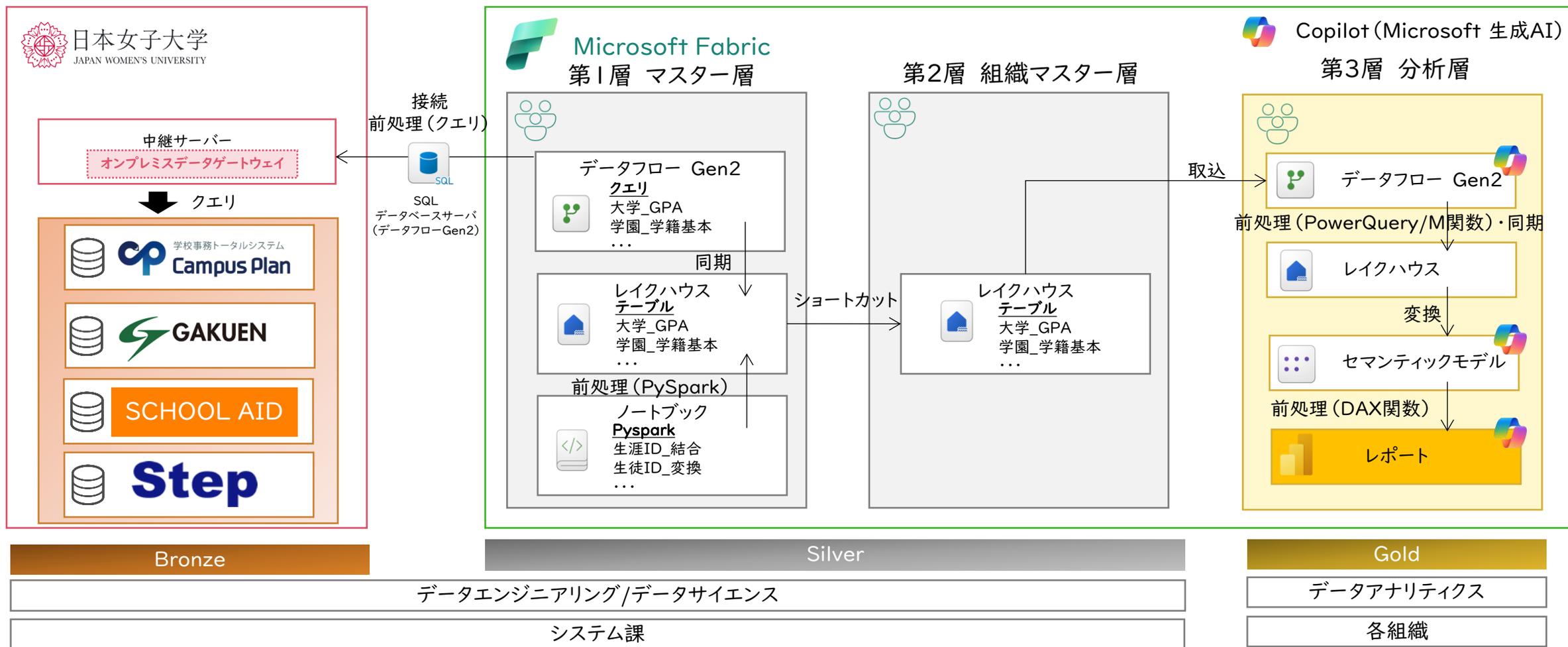



データ分析
施策立案
評価

目標

2.3 データ統合分析基盤 (JWU-IR) の概要

- 学園データ統合基盤 (JWU-IR) は、Microsoft Fabric(SaaS型データ統合分析基盤)で内製開発
 特徴①: Microsoft Fabricに学園の各種システムのデータが自動的に連携し、生涯IDを付与
 特徴②: セキュリティ及び権限管理をMicrosoft Fabricで3層構造のシステムで実現、安全かつ円滑にデータ共有
 特徴③: データ分析のベストプラクティスに準拠により、分析者が目的に沿ったレポート作成可能



2.4 データ統合分析基盤 (JWU-IR) のデモ

- 高校の入学時の入試形態と大学でのGPAの傾向分析を一例として取り上げる。
- 「高校システム」から「高校入試形態テーブル」を「大学システム」から「大学GPA」を取得し、「生涯ID」で各テーブル間を紐づけを実施し、分析が可能となる。

第2層 組織マスター層

高校システム ➡ 高校入試形態テーブル

生涯ID	学籍番号(高校)	高校入試形態
11111111	31700001	一般
22222222	31700002	内部
33333333	31700003	推薦
...

大学システム ➡ 大学GPAテーブル

生涯ID	学籍番号(大学)	GPA
11111111	22001001	2.8
22222222	22001002	3.0
33333333	22001003	3.2
...

Silver

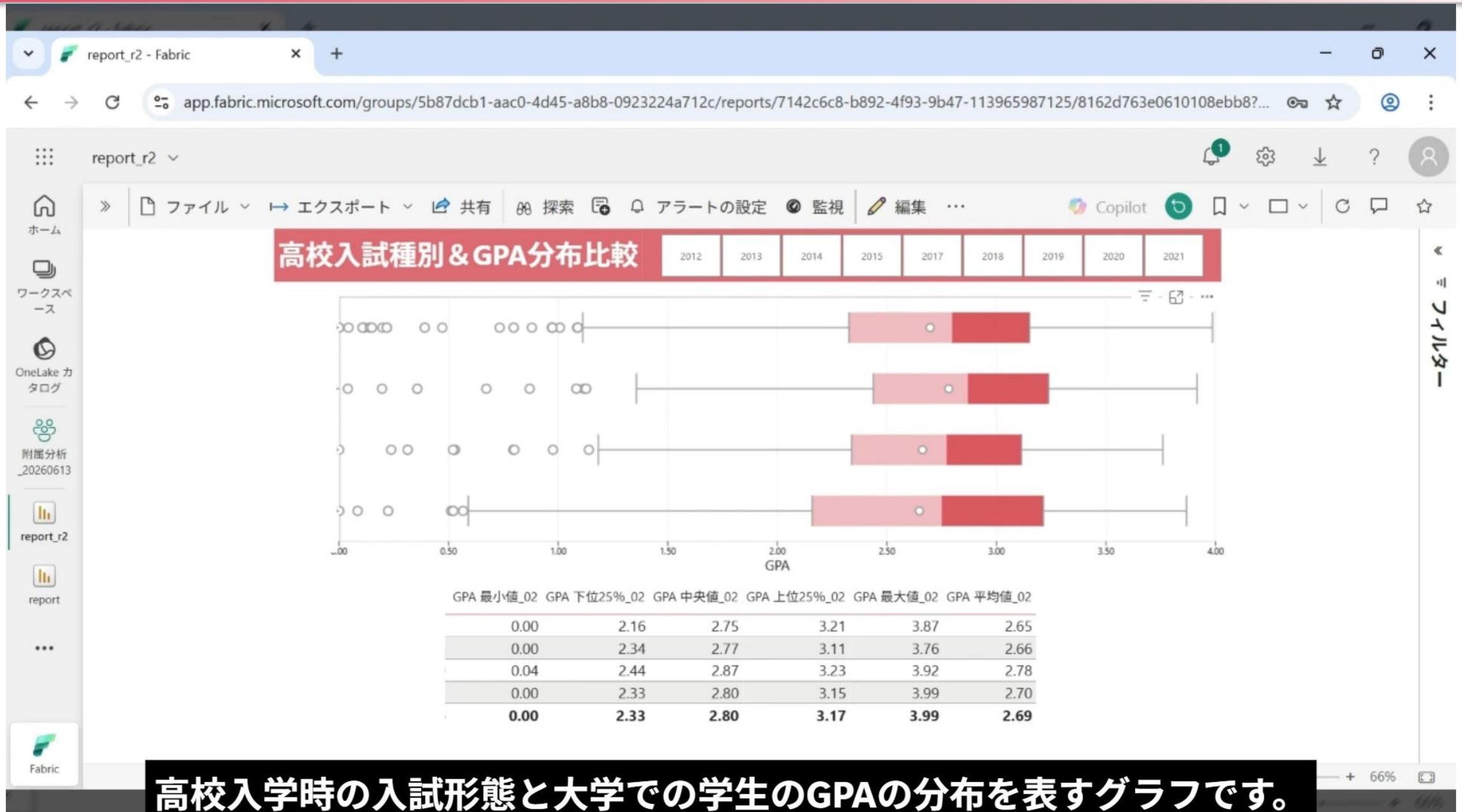
第3層 分析層

大学GPA+高校入試形態テーブル

生涯ID	学籍番号(大学)	学籍番号(高校)	高校入試形態	GPA
11111111	22001001	31700001	一般	2.8
22222222	22001002	31700002	内部	3.0
33333333	22001003	31700003	推薦	3.2
...

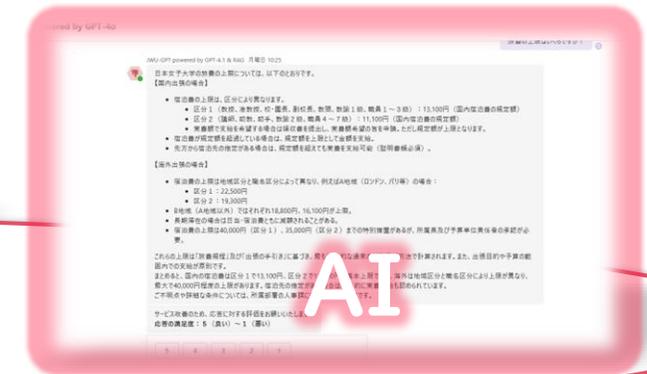
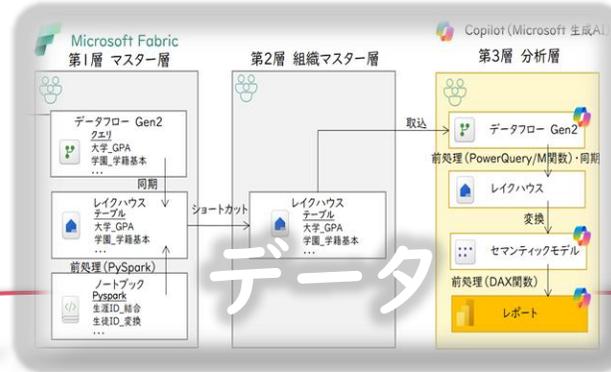
Gold

2.4 データ統合分析基盤 (JWU-IR) のデモ



高校入学時の入試形態と大学での学生のGPAの分布を表すグラフです。

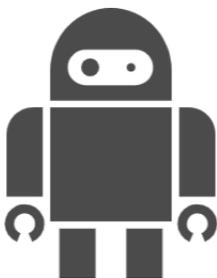
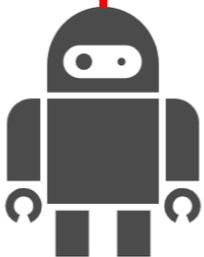
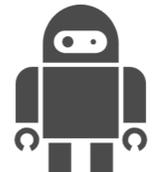
- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
 - (1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
 - (2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
 - (3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー**



DX創生プラットフォーム

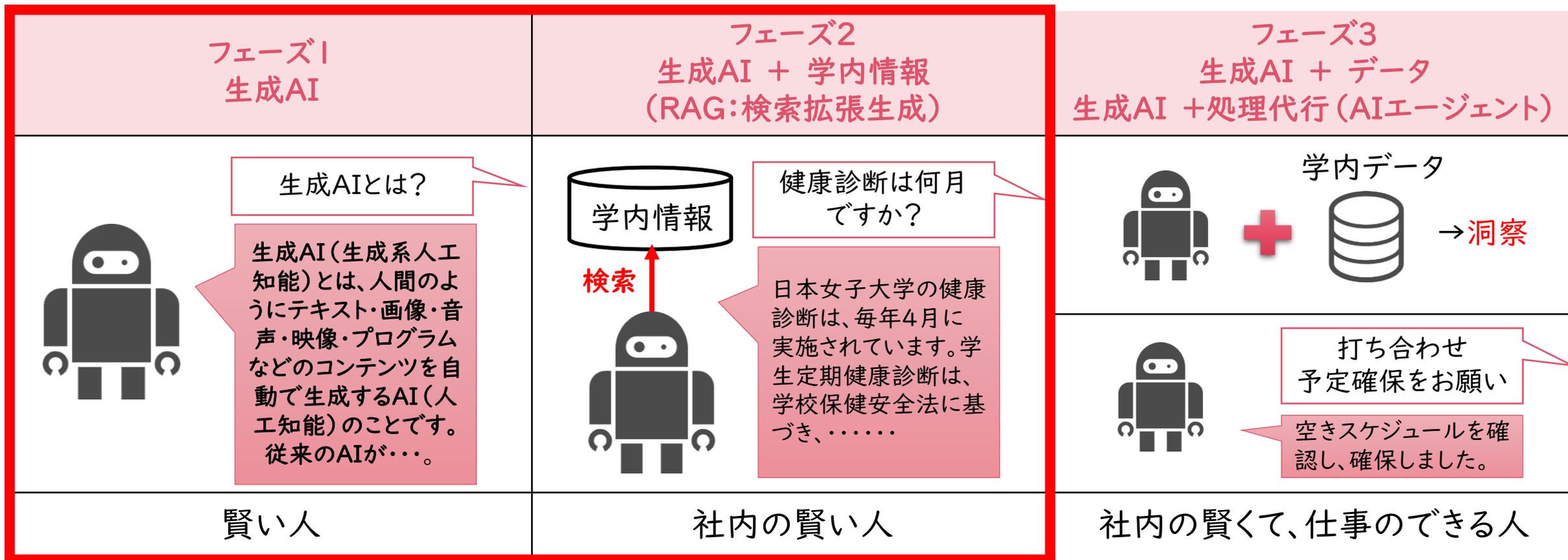
3.1 AIの動向

- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行 (AIエージェント) が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIエージェント機能も利用

フェーズ1 生成AI	フェーズ2 生成AI + 学内情報 (RAG:検索拡張生成)	フェーズ3 生成AI + データ 生成AI + 処理代行 (AIエージェント)
 <p>生成AIとは?</p> <p>生成AI(生成系人工知能)とは、人間のようにテキスト・画像・音声・映像・プログラムなどのコンテンツを自動で生成するAI(人工知能)のことです。従来のAIが……。</p>	 <p>学内情報</p> <p>検索</p> <p>健康診断は何月ですか?</p> <p>日本女子大学の健康診断は、毎年4月に実施されています。学生定期健康診断は、学校保健安全法に基づき、……</p>	 <p>学内データ</p> <p>+</p>  <p>→ 洞察</p> <p>打ち合わせ 予定確保をお願い</p> <p>空きスケジュールを確認し、確保しました。</p>
賢い人	社内の賢い人	社内の賢くて、仕事のできる人

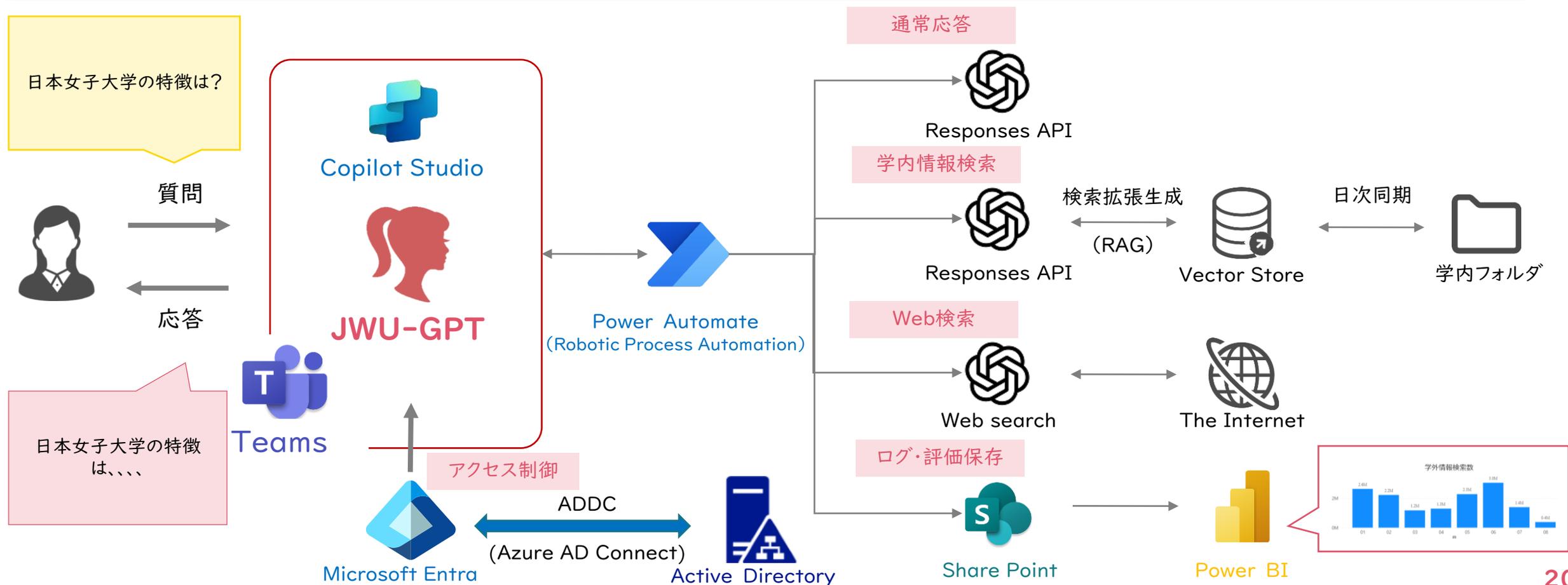
3.1 AIの動向

- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行（AIEージェント）が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIEージェント機能も利用



3.2 生成AIと学内情報の連携 (RAG)

- 日本女子大学専用の生成AI対話プラットフォーム (JWU-GPT) を **2023年度より全教職員に提供**
- すでに全教職員に提供されていた **TeamsをUIに**、**OpenAI社のChatGPTのAPI経由**で問合せ
- 生成AIの技術動向に応じて、**学内情報検索**・Web検索機能を追加



3.2 生成AIと学内情報の連携 (RAG)



お知らせ 最近行われた更新の中で、以前に非表示にした可能性のある一部のチームが再び表示されるようになっています。表示されないようにする場合、[チーム] ビューから簡単に非表示にすることができます。

アクティビティ

チャット

チーム

課題

カレンダー

通話

JWU-GPT p...

...

アプリ

JWU-GPT powered by GPT-4o

はい いいえ

11:32
いいえ

JWU-GPT powered by GPT-5 & RAG 11:32

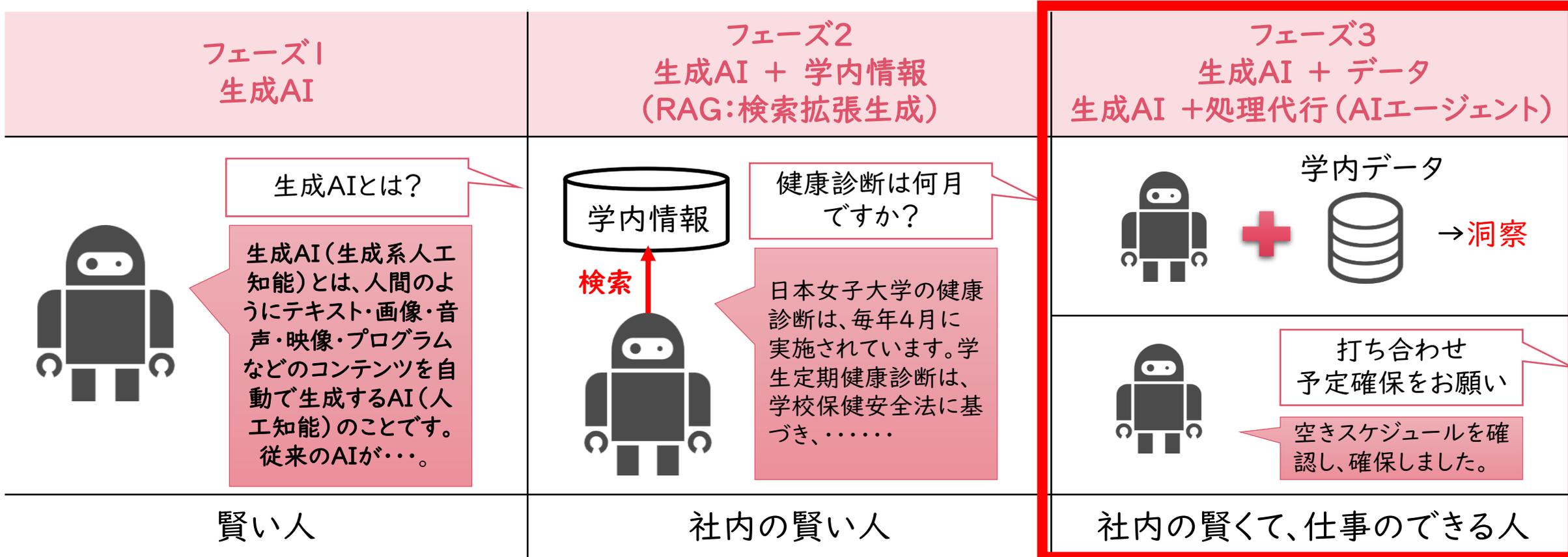
ありがとうございました！
再度、私と会話したい場合は、ボタンを押してください。
ボタンが押せない場合は、次のように入力してください。
(1) 会話を開始：**gpt**を入力
(2) 学内情報を検索：**in**を入力
(3) Web情報を検索：**web**を入力
各機能については[こちら](#)をご確認ください。

会話を開始 学内情報を検索 Web情報を検索

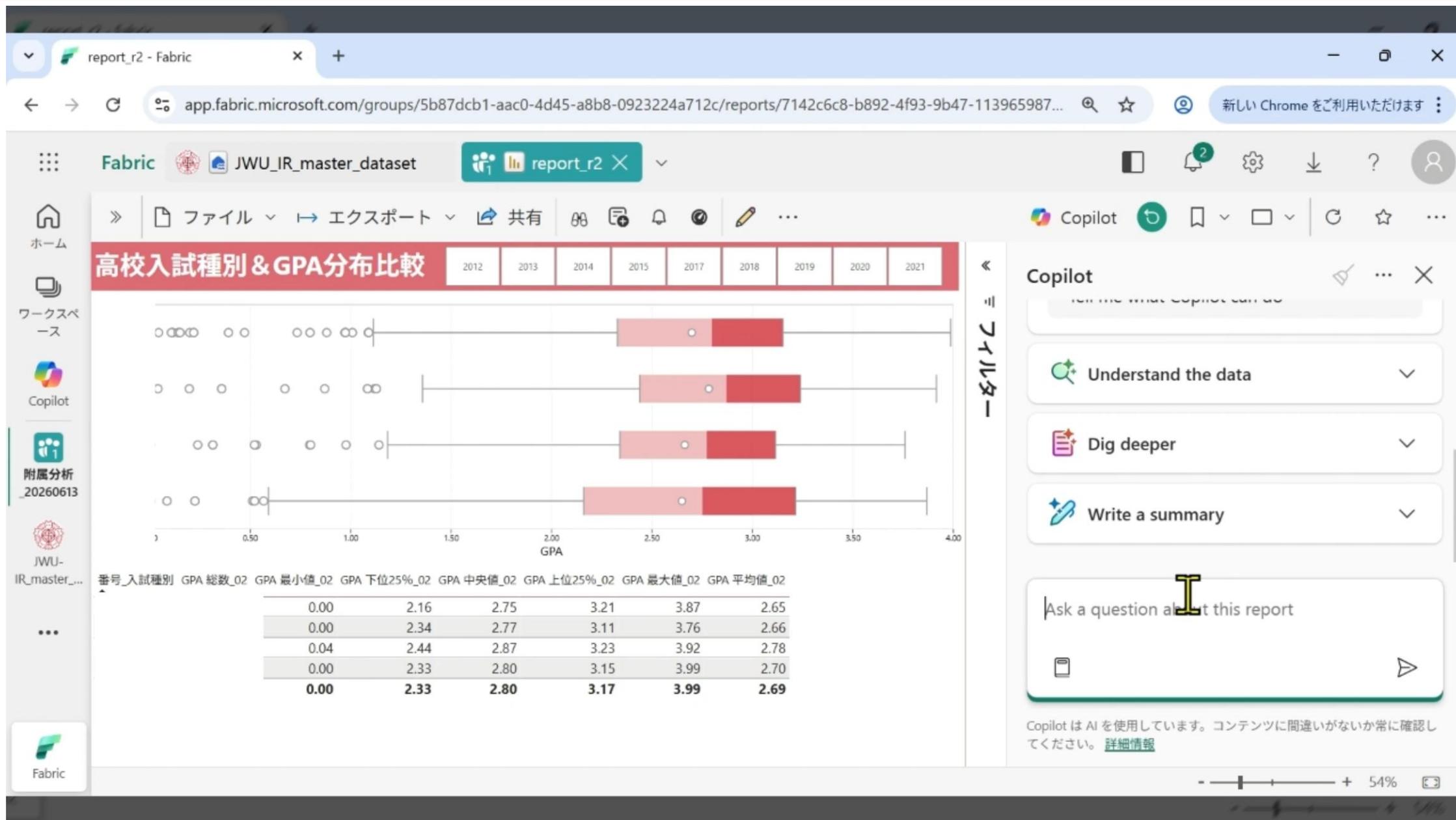
メッセージを入力

3.1 AIの動向

- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行 (AIエージェント) が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIエージェント機能も利用



3.2 生成AIと学内データの連携



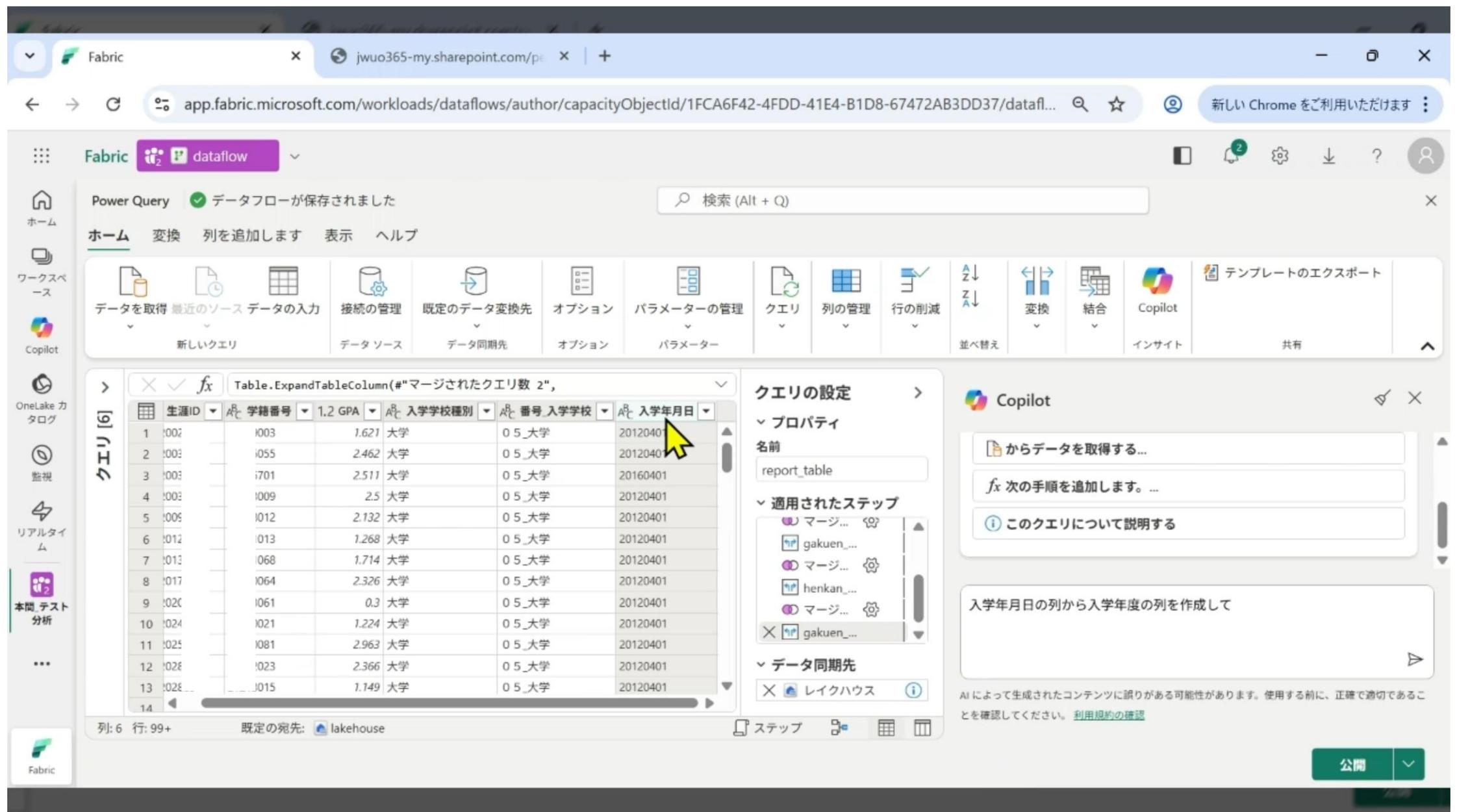
高校入試種別 & GPA分布比較

番号_入試種別	GPA 総数_02	GPA 最小値_02	GPA 下位25%_02	GPA 中央値_02	GPA 上位25%_02	GPA 最大値_02	GPA 平均値_02
0.00	2.16	2.75	3.21	3.87	2.65		
0.00	2.34	2.77	3.11	3.76	2.66		
0.04	2.44	2.87	3.23	3.92	2.78		
0.00	2.33	2.80	3.15	3.99	2.70		
0.00	2.33	2.80	3.17	3.99	2.69		

Copilot sidebar options:

- Understand the data
- Dig deeper
- Write a summary
- Ask a question about this report

3.3 データ分析業務におけるAIエージェント



The screenshot displays the Microsoft Fabric Dataflow interface. At the top, a browser window shows the URL `app.fabric.microsoft.com/workloads/dataflows/author/capacityObjectId/1FCA6F42-4FDD-41E4-B1D8-67472AB3DD37/datafl...`. The interface includes a navigation pane on the left with options like 'ホーム', 'ワークスペース', and 'Copilot'. The main area shows a Power Query editor with a table of data. A Copilot AI agent is active on the right, providing instructions for data transformation.

クエリ [6]

	生涯ID	学籍番号	1.2 GPA	入学学校種別	番号_入学学校	入学年月日
1	002	003	1.621	大学	05_大学	2012040
2	003	055	2.462	大学	05_大学	2012040
3	003	0701	2.511	大学	05_大学	20160401
4	003	009	2.5	大学	05_大学	20120401
5	005	012	2.132	大学	05_大学	20120401
6	012	013	1.268	大学	05_大学	20120401
7	013	068	1.714	大学	05_大学	20120401
8	017	064	2.326	大学	05_大学	20120401
9	020	061	0.3	大学	05_大学	20120401
10	024	021	1.224	大学	05_大学	20120401
11	025	081	2.963	大学	05_大学	20120401
12	026	023	2.366	大学	05_大学	20120401
13	028	015	1.749	大学	05_大学	20120401
14						

列: 6 行: 99+ 既定の宛先: lakehouse

クエリ [6] Table.ExpandTableColumn("#マージされたクエリ数 2",

クエリの設定

- 名前: report_table
- 適用されたステップ:
 - マージ...
 - gakuen...
 - マージ...
 - henkan...
 - マージ...
 - gakuen...
- データ同期先: レイクハウス

Copilot

入学年月日の列から入学年度の列を作成して

AIによって生成されたコンテンツに誤りがある可能性があります。使用する前に、正確で適切であることを確認してください。 [利用規約の確認](#)

公開



電子出席アプリ
(e-出席カード)



通信教育課程
ポータル更改



電子稟議システム

月	日	出勤	遅刻	早退	欠勤	遅刻	早退	欠勤
07/02	10	●	●	●	●	●	●	●
07/03	11	●	●	●	●	●	●	●
07/04	12	●	●	●	●	●	●	●
07/05	13	●	●	●	●	●	●	●
07/06	14	●	●	●	●	●	●	●
07/07	15	●	●	●	●	●	●	●
07/08	16	●	●	●	●	●	●	●
07/09	17	●	●	●	●	●	●	●
07/10	18	●	●	●	●	●	●	●
07/11	19	●	●	●	●	●	●	●
07/12	20	●	●	●	●	●	●	●
07/13	21	●	●	●	●	●	●	●
07/14	22	●	●	●	●	●	●	●
07/15	23	●	●	●	●	●	●	●
07/16	24	●	●	●	●	●	●	●
07/17	25	●	●	●	●	●	●	●
07/18	26	●	●	●	●	●	●	●
07/19	27	●	●	●	●	●	●	●
07/20	28	●	●	●	●	●	●	●
07/21	29	●	●	●	●	●	●	●
07/22	30	●	●	●	●	●	●	●
07/23	31	●	●	●	●	●	●	●

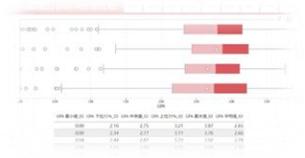
勤怠管理システム



Web出願
入試管理システム



機器セルフレンタルシステム



学園IR強化



図書館システム
クラウド化



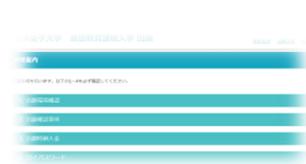
仮想デスクトップ環境検証



学生ポートフォリオ



キャリア支援
クラウドサービス



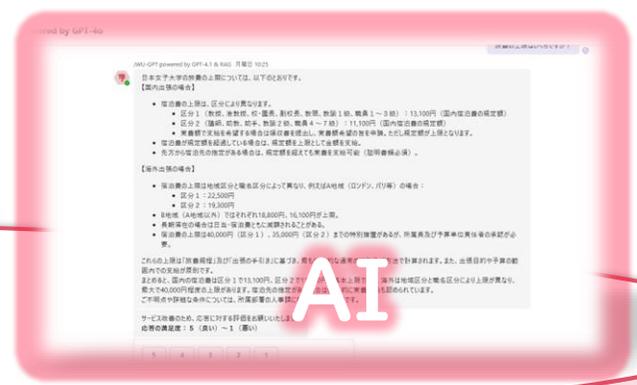
通信教育課程
Web出願システム



人材



データ



AI



電子出席アプリ
(e-出席カード)



通信教育課程
ポータル更改



電子稟議システム



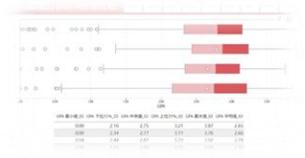
勤怠管理システム



Web出願
入試管理システム



機器セルフレンタルシステム



学園IR強化



図書館システム
クラウド化



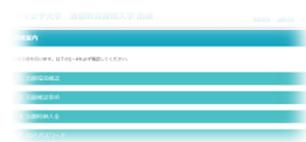
仮想デスクトップ環境検証



学生ポートフォリオ



キャリア支援
クラウドサービス



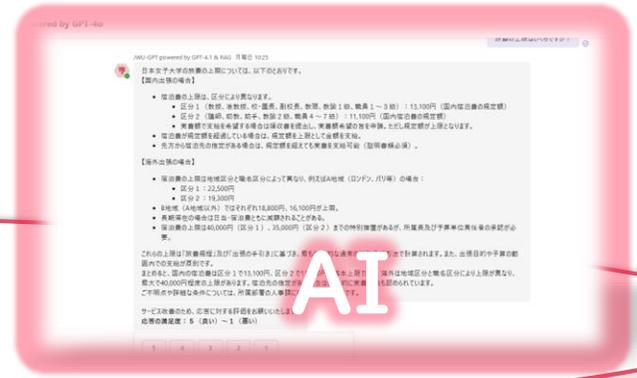
通信教育課程
Web出願システム



人材



データ



AI

DX創生プラットフォーム

1.人材

- 1.1 DX人材育成の背景
- 1.2 DXコア人材のスキル整理
- 1.3 DXコア人材の育成方針
- 1.4 DXコア人材の育成実行

2.データ

- 2.1 データ統合の方針
- 2.2 データ統合の課題
- 2.3 データ統合分析基盤 (JWU-IR) の概要
- 2.4 データ統合分析基盤 (JWU-IR) のデモ

3.AI

- 3.1 AIの動向
- 3.2 生成AIと学内情報の連携 (RAG)
- 3.2 生成AIと学内データの連携
- 3.3 データ分析業務におけるAIエージェント

勤怠管理システム導入プロジェクト

1.勤怠管理システム導入前の課題

2.勤怠管理システム導入のスケジュール

- 2.1 勤怠管理システムの選定
- 2.2 勤怠管理システムの設定
- 2.3 勤怠管理システムの学内周知

3.勤怠管理システム導入による課題解決

4.勤怠管理システム導入の副次的効果

- 4.1 副次的効果①:勤怠管理に関わる工数削減
- 4.2 副次的効果②:時間を意識した働き方
- 4.3 副次的効果②:働き方を検討の基礎データ

5.今後の展望:学園の生産性向上

勤怠管理は何でしてますか？

もちろん、システム!!

Excelも使います。

ごめんなさい、紙です。

勤怠管理は何でしてますか？

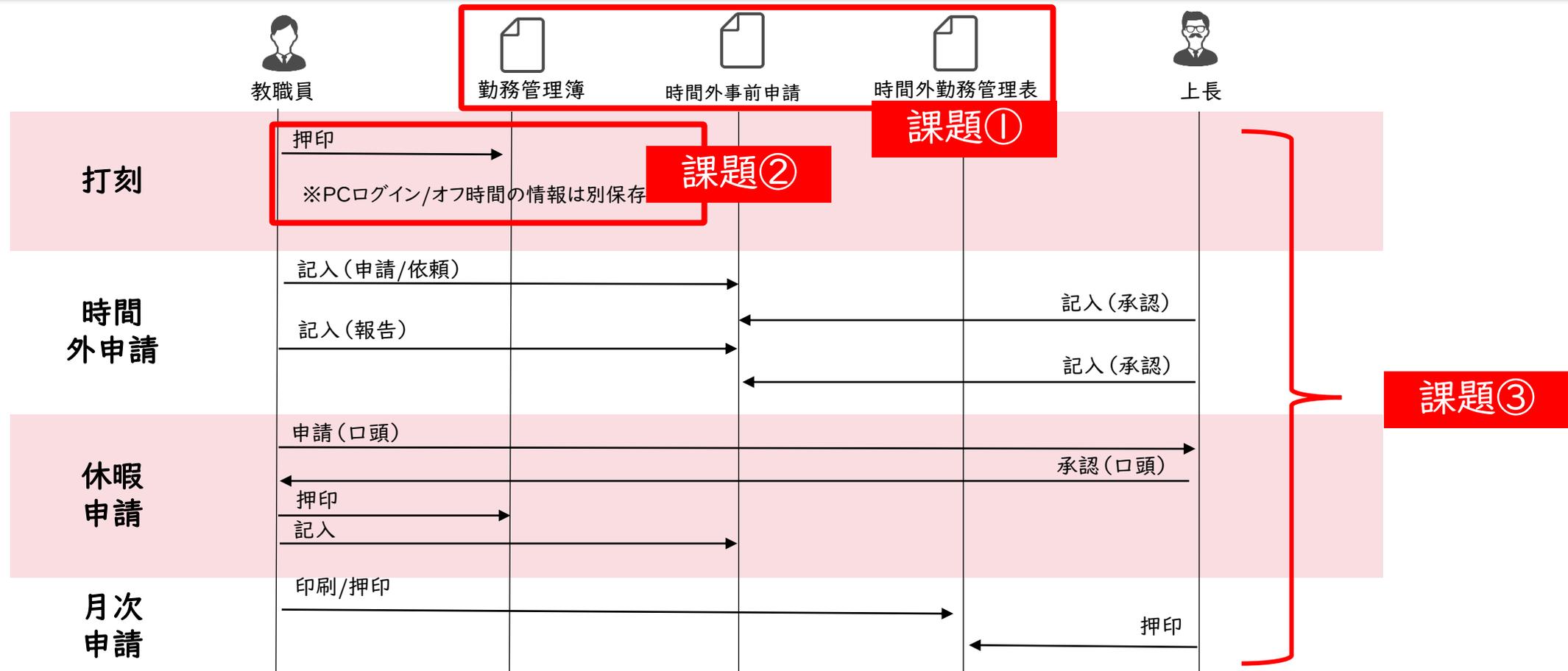
もちろん、システム!!

Excelも使います。

ごめんなさい、紙です。

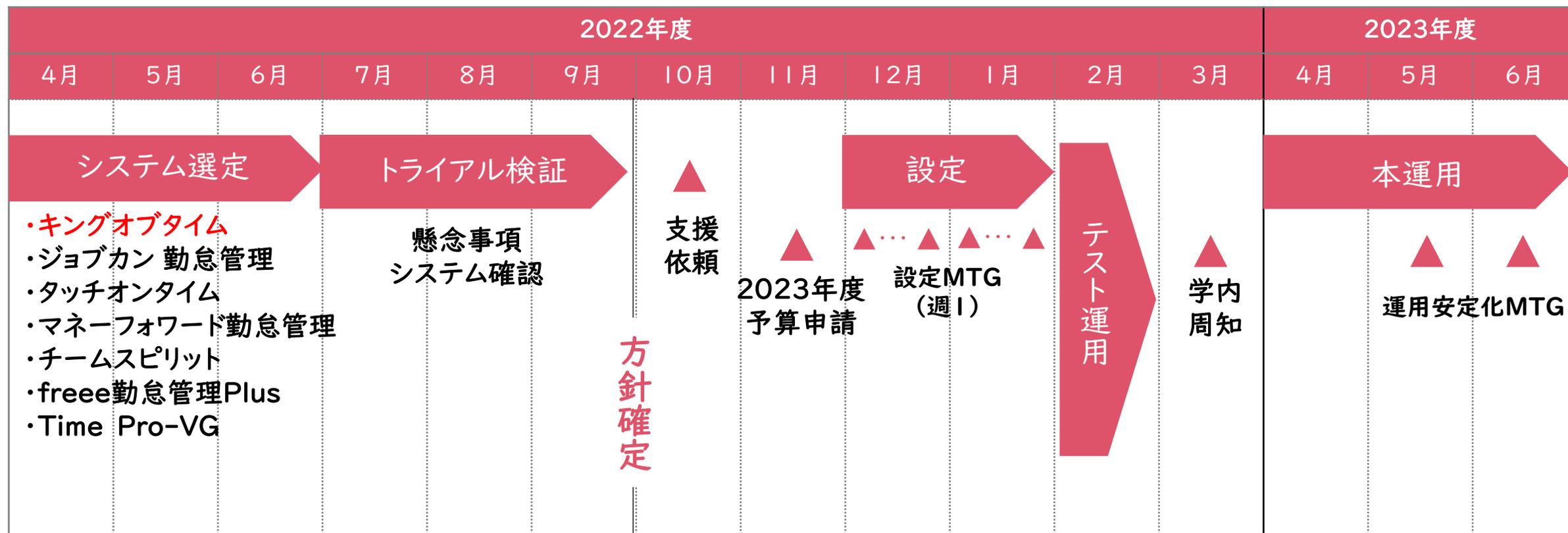
1. 勤怠管理システム導入前の課題

- 従来の勤怠管理では、Excel・紙・PCログ突合を利用して管理したため、次の3つの課題を設定
 - 課題①: 勤怠管理に関わる紙様式の撤廃
 - 課題②: 出勤・退勤打刻のシステムによる自動化(負担少/不正打刻防止)
 - 課題③: 冗長かつ複雑な申請の効率化・適正化



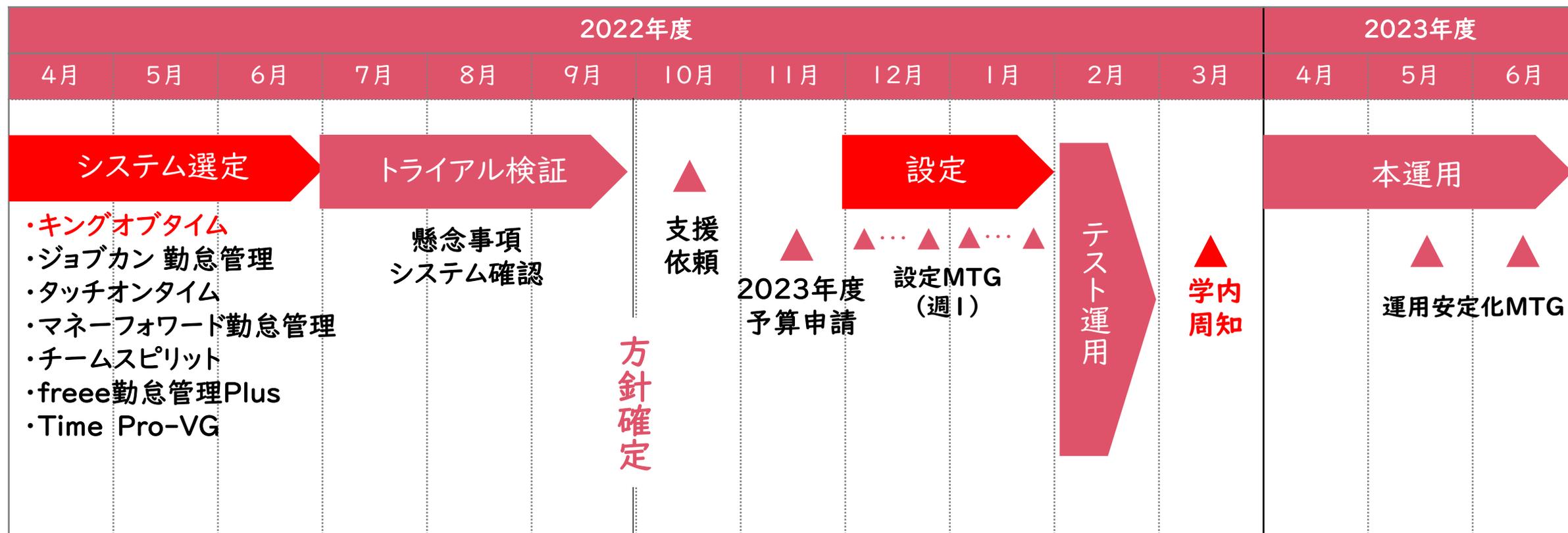
2. 勤怠管理システム導入のスケジュール

- 2022年度より勤怠システムの導入の検討を開始
- 上期にシステム選定とトライアル検証を実施し、方針を確定させた
- 下期は、2023年度からの本運用に向け、設定、テスト運用、学内周知を実施



2. 勤怠管理システム導入のスケジュール

- 2022年度より勤怠システムの導入の検討を開始
- 上期にシステム選定とトライアル検証を実施し、方針を確定させた
- 下期は、2023年度からの本運用に向け、設定、テスト運用、学内周知を実施



2.1 勤怠管理システムの選定

- 本学の従来の勤怠管理をシステム化するのではなく、**標準化された勤怠管理システムの仕様に本学の勤怠管理を整理する方針**としたため、開発ではなく、SaaSで比較を実施した。
- 本学では、コスト、打刻方法の選択肢、拡張性の観点から株式会社ヒューマンテクノロジーズの「キングオブタイム」を候補として選定し、学内でトライアル環境で検証を開始した。

※下表は、検討当時の比較になりますので、最新情報は各社に問い合わせください。

		キングオブタイム	ジョブカン	タッチオンタイム	マネーフォワード勤怠管理	チームスピリット	freee勤怠管理Plus	Time Pro-VG
								
業者		株式会社ヒューマンテクノロジーズ	株式会社DONUTS	株式会社デジジャパン(寺岡精エグループ)	株式会社マネーフォワード	株式会社チームスピリット	株式会社freee	アマノ株式会社
価格(税込)	初期費用(基本料金)	0円	0円	0円	約65,000円/年	約150,000円~/年	約50,000円~	500名プラン:800~1000万円 1000名プラン:1000~1200万円
	月額	330円/ユーザー	440円/ユーザー	330円/ユーザー	330円/ユーザー	660円/ユーザー	550円~/ユーザー	500名プラン:年間40万円 1000名プラン:年間60万円
打刻		○ windowsログインログオフ Web打刻 モバイル モバイルアプリ 各種リーダー	○ Web打刻 モバイル モバイルアプリ 各種リーダー (ICカード、静脈、顔)	○ windowsログインログオフ Web打刻 モバイル モバイルアプリ 各種リーダー	△ Web打刻 スマートフォン打刻 リーダー(ICカード)	△ Web打刻 ※カスタマイズにてwindows ログインログオフが可能	△ Web打刻 各種リーダー (ICカード、指紋、静脈)	△ Web打刻 ※カスタマイズにてwindows ログインログオフが可能
データ分析機能		○ 無料で利用可能 (キングオブタイム データ分析)	×	×	○	○ データの分析に強み (ダッシュボード機能)	×	△ 一覧での表示が可能

2.2 勤怠管理システムの設定

- 株式会社ヒューマンテクノロジーズと人事課・システム課が週1でミーティングを実施し、本学の運用に即したシステムの設定を約2か月間で完了
- 本運用に先立ち、人事課・システム課の全職員で1か月間テスト運用を実施し、給与計算まで問題がないことを確認



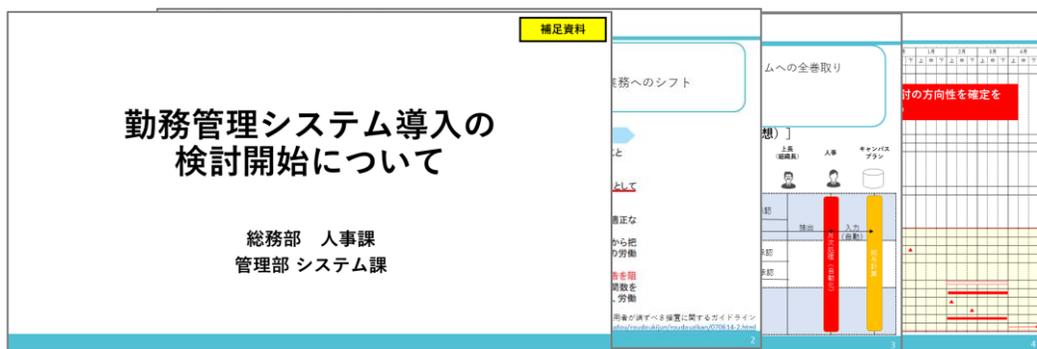
設定項目 その一		
組織	所属設定	
	タイムレコーダー設定	
	所属グループ設定	
管理者	管理者設定	
	申請承認フロー設定	
	メールテンプレート設定	
従業員	雇用区分設定	基本情報
		働き方
		休憩関連
		深夜労働
		日の時間外集計
		週の時間外集計
		月の時間外集計
	従業員登録	スケジュール
		基本情報
		雇用情報
		タイムレコーダー情報
		従業員グループ設定

設定項目 その二	
スケジュール	パターン設定
	自動スケジュール設定
	休暇区分設定
画面表示	カスタムデータ項目設定
	表示項目設定
	アラート設定
その他	オプション
	祝日設定
	通知設定
	補助項目設定
	働き方改革関連設定

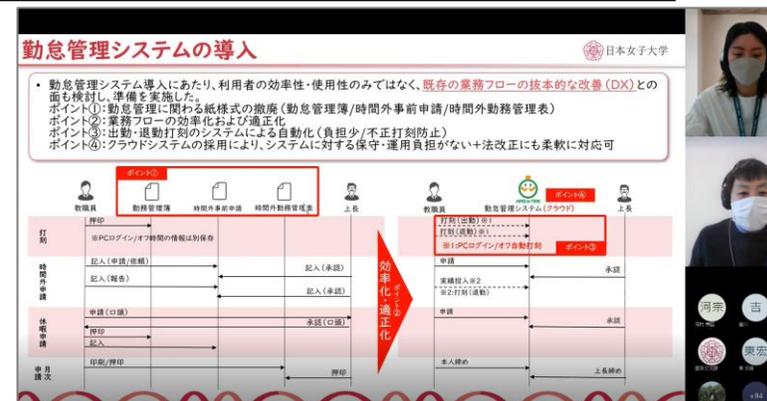
2.3 勤怠管理システムの学内周知

- 勤怠管理システムの円滑な導入・運用に向けて、以下の取り組みを実施した。
 - 取組①: 定期的な学内会議での進捗及びスケジュールの共有
 - 取組②: 勤怠管理システムの説明会の開催
 - 取組③: 操作マニュアルの配備
 - 取組④: 勤怠管理システムの問合せ窓口メール一本化(人事課+システム課)

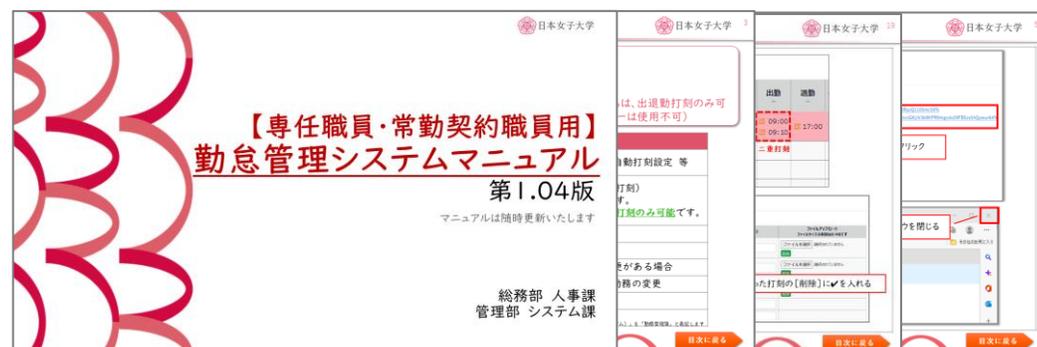
取組①学内会議への定期的な付議



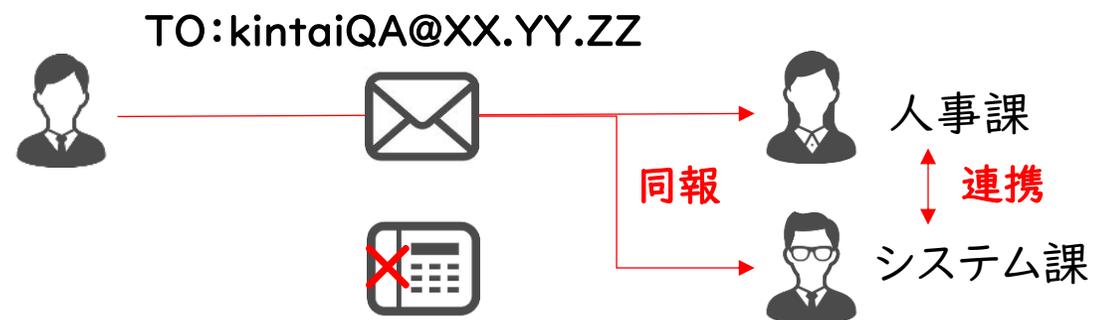
取組②勤怠管理システム説明会の開催



取組③操作マニュアルの配備

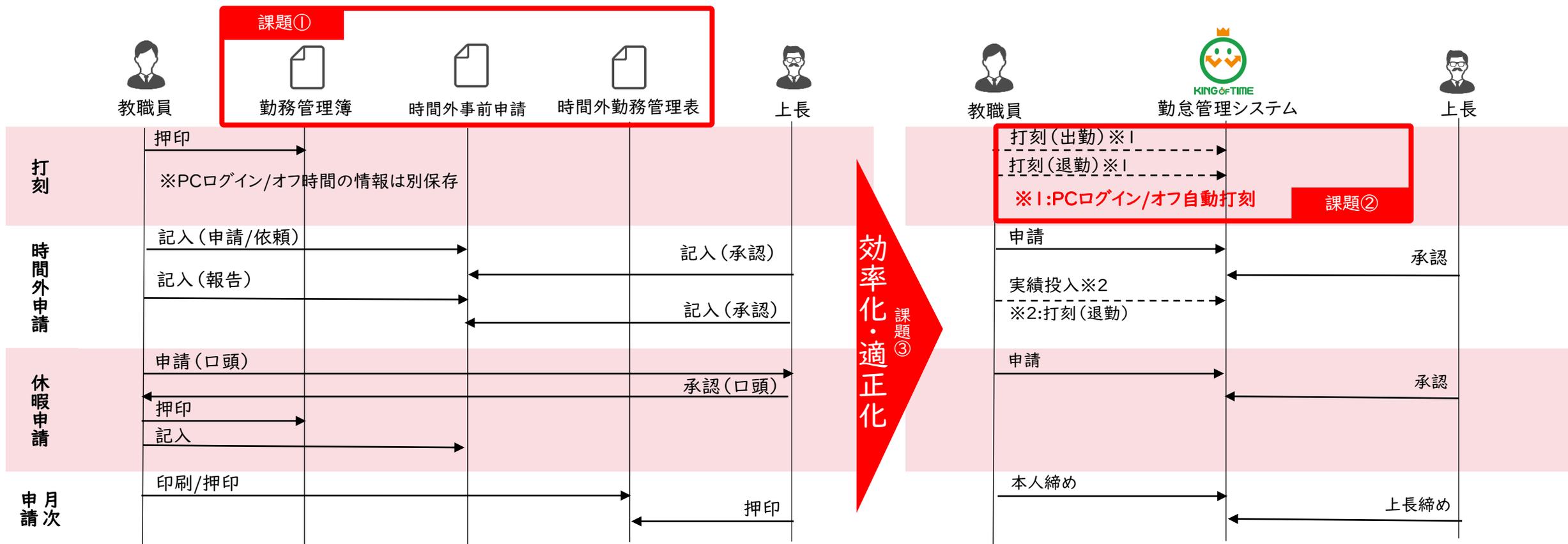


取組④問合せメール一本化



3. 勤怠管理システム導入による課題解決

- 勤怠管理システムを導入したことで、次の3つの課題を解決
 - 課題①: 勤怠管理に関わる紙様式の撤廃
 - 課題②: 出勤・退勤打刻のシステムによる自動化 (負担少/不正打刻防止)
 - 課題③: 冗長かつ複雑な申請の効率化・適正化



4. 勤怠管理システム導入の副次的効果

- 勤怠管理システムの導入により、当初設定した課題の解決とは別の副次的な効果を得ることができた。

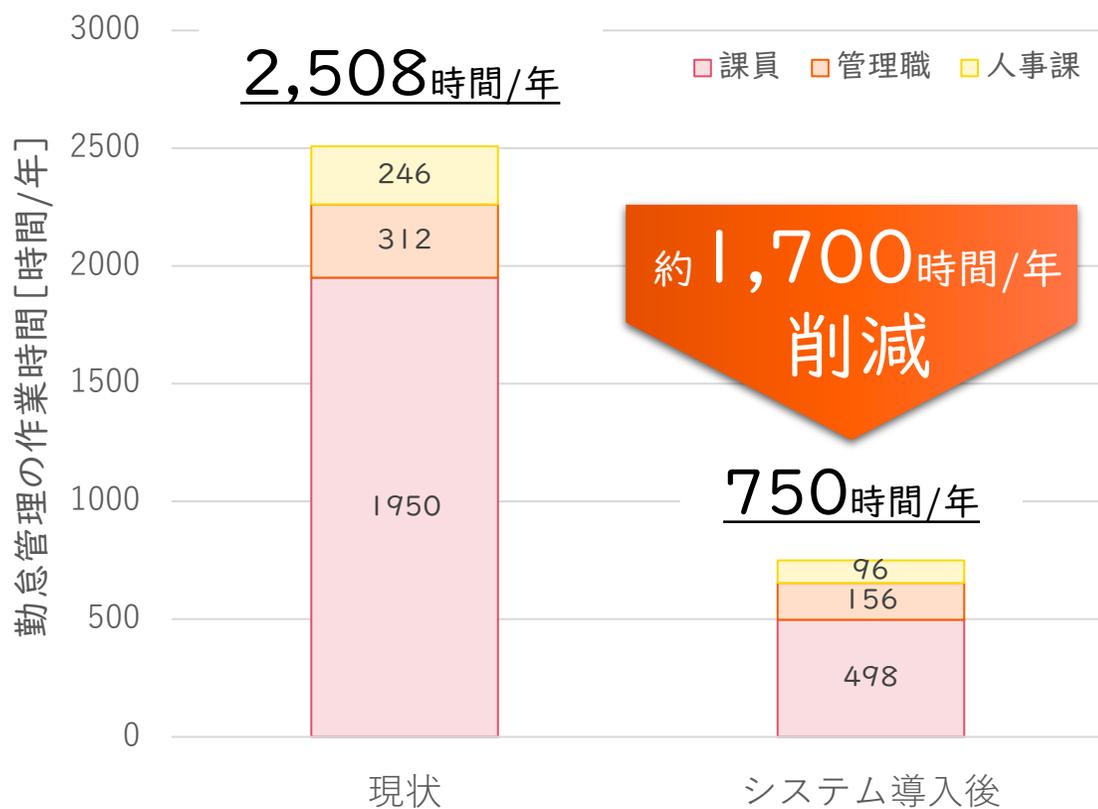
副次的効果①：勤怠管理に関わる工数削減

副次的効果②：時間を意識した働き方

副次的効果③：働き方検討の基礎データ

4.1 副次的効果①：勤怠管理に関わる工数削減

- 勤怠管理のシステム化により、**年間約1,700/時間の削減(約1人・年)**を見込むことができ、システム利用料(年間約50万円)については**十分な採算が取れる**想定をしている。



		システム導入前 [時間/年]	システム導入後 [時間/年]	<内訳>	
				システム導入前 [分/月・人]	システム導入後 [分/月・人]
課員 (150名)	打刻(押印)	300	0	10	0
	時間外申請・報告	1200	300	40	10
	休暇申請	150	150	5	5
	月次処理	300	48	10	10
管理職 (26課)	時間外承認	156	52	30	10
	月次処理	156	104	30	20
人事課		246	96	0	0
合計		2508	750	125	55
削減(B) - (A)		-	-1758-	-	-

4.2 副次的効果②：時間を意識した働き方

- 出勤・退勤の打刻はPCのログイン／ログオフと連動
- 手間とミスを減らし、かつ時間を意識した働き方を自然に実現



4.3 副次的効果③：働き方検討の基礎データ

- 勤怠データをシステムで一元管理したことで、**学園全体の働き方を客観的に分析**
時間外労働の適正管理、有給取得の把握・促進に利用
- 今後の「**あるべき働き方**」を検討するための**基礎データ**として、活用している



本間 隼人 ●

所属	システム課	雇用区分	専任職員	部署	未登録
役職	未登録	契約種別	未登録	業種	未登録
勤続年数	3年9ヶ月	年代	30代	性別	男性



労働時間

出勤規則性

遅刻回数

休出回数

休暇取得日数

■ 本間 隼人
■ 在籍者
■ 退職者

※分析利用開始時点から現在までの集計値です。

当月許容時間

79.98 h

特別条項発動回数

0/3 回

有給休暇取得状況

10.0 / 9 h

年5日取得義務

残 - 日 (期日までの日数 - 日)

基準時刻と打刻の差異

16.88 h

5. 今後の展望：学園の生産性向上

- 本学では、タレントマネジメントシステム (HRBrain) を導入済
- 勤怠データと連携させることで、教職員のパフォーマンスを分析することが可能となる
- 学園全体の生産性向上を目指した施策の立案に活用していきたい考え



タイムカード(カスタム)

平日	休日	遅刻	早退	年休	土曜日休暇	季節休暇	振替休日	欠勤	特別休暇	子の看護休暇	介護休暇	育児時間	介助時間
21.0	0.0	0	0	1.0 / OH (残 29.0 / 5H)	3.0 (残 15.0)	0.0 (残 30.0)	0.0	0.0 / OH	0.0 (残 0.0)	0.0 / OH (残 0.0)	0.0 / OH	0.0 / OH (残 0.0)	0.0 / OH (残 0.0)

申請	日付	勤務日	出勤	退勤	休憩	打倒	時間	欠勤	遅刻	早退	労働	勤務	所定	所定	法定	法定	深夜	法定	法定	不就業	
	06/01 (日)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/02 (月)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/03 (火)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/04 (水)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/05 (木)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/06 (金)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/07 (土)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/08 (日)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	06/09 (月)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

勤怠管理システム



学校法人日本女子大学

2025年度人事考課(進行中)

ダッシュボード / 自分のシート

未提出 0枚 | 未承認 0枚 | 未振り回り 2枚 | 未評価 0枚 | 評価済 1枚

全2件中1~2件表示

被評価者名	シート名	提出	承認	振り回り	一次評価	最終評価
本間 隼人	成績考課&能力行動考課(非管理職)	●	●	●	●	●
本間 隼人	自己申告書(非管理職)	●	●	●	●	●

タレントマネジメントシステム

パフォーマンス分析の領域へ・・・

DX創生プラットフォーム

日本女子大学の更なるDX推進の施策創出のための仕掛けを強化

- (1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
- (2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
- (3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー

勤怠管理システム導入プロジェクト

勤怠管理システムにより、当初の課題を解決

- (1) 勤怠管理に関わる紙様式の撤廃
- (2) 出勤・退勤打刻のシステムによる自動化(負担少/不正打刻防止)
- (3) 冗長かつ複雑な申請の効率化・適正化

働き方改革につながる副次的効果を得た

- ・副次的効果(1) : 勤怠管理に関わる工数削減
- ・副次的効果(2) : 時間を意識した働き方
- ・副次的効果(3) : 働き方を検討の基礎データ

日本女子大学 システム課/メディアセンター DX事例

Digital Transformation Research & Activities

日本マイクロソフト株式会社
Microsoft大学ユーザー会

2025.12.18

フル・エンrollmentマネジメント実現に向けたMicrosoft Fabricによる学園IR基盤の内製開発



日本女子大学DXの取組事例

ご清聴ありがとうございました。

日本女子大学はこれからも堅実にDX推進していきます。
本内容が皆様の少しでもご参考になれば幸いです。